

平成20年2月1日発行

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページhttp://kumagawa-juku.com



熊川いっぶく時代村 (平成19年10月14日撮影)

今年も大盛況！熊川いっぶく時代村

穏やかな天候に恵まれ、山車の巡行で開幕。松木神社の例祭も行われ、子どもたちがお囃子を奉納し、参詣者には長擗鍋が振る舞われました。

四年振りの復活となった「大八車レース」では、十五組の親子が順次街道を疾走し、イキの合った親子の活躍が見られました。

毎年大人気の「フリキの金魚レース」では、前川を流れる金魚を追いかけました。

時代村名物「駕籠屋でござる in 熊川宿」では、参加十四チーム中、山田建築チームが慎重なレース運びで見事優勝しました。

本陣ステージでは五湖鶴太鼓や浦安の舞の伝統芸能が披露され、街道各地で葛湯やつきたてお餅の振る舞い、船細工や竹細工の屋台職人、各団体によるいっぶく処や朝市が開かれ大勢の人で賑わいました。

実行委員会をはじめとする各団体が早くから企画会議を重ね準備をされてきました。大変ご苦労様でした。

熊川いっぶく時代村	1
寄稿文	2
鯖街道交流シンポジウム	3
熊川いっぶく時代村	4
日本風景街道事業ほか	5
活動報告	6

古民家の修理に携わって

大工 澤田 一夫

(熊川宿町並み保存伝統技術研究会 会員)

熊川宿は重伝建選定十年を過ぎ、家屋の修理修景も進んで歴史的景観が蘇ってきました。そんな中、私も幾つかの家屋の修理に携わり町並み保存の一端を担っています。

先日あるお宅から、家屋の修理工事を請負い現地を見させていただきました。そのお宅は長年空き家になっていたため、湿気とシロアリの被害がひどく、基礎がかなり傷んでおり柱も傾いていました。予算の都合もあろうかと思いましたが、内装を少し我慢して基礎を直していただくようアドバイスしました。後日、ご了解をいただき工事に取りかかった次第です。

家屋の新築や修理は一生の内にそう何度も出来ることではありません。せつかく直すのだからいいものを仕上げたい。大工としての職人気質が出てしまいます。

これから家を直していこうと考えておられる方は、まず基礎と屋根を重視していただきたいと思います。ついつい大層だからと、傷んだ基礎を直さずに修理されるのはとても残念です。また、礎石は長年かけておさわっているもので、掘り起こさない方が望ましいと考えます。礎石を活

かしながらコンクリを打って水平にして新しく土台を差し込みます。

また他の伝建地区と比べて

熊川は、設計士の先生方のご指導やデザインガイドに基づいた修理・修景方法で、瓦一枚、釘一本までガイドラインがあり、とても心強く本物志向を感じます。

この先、益々修理修景家屋が増えていくことと思いますが、ほっと癒される町並みで、各家々はなつかしい佇まいを残しながらも住みやすい、そんな熊川宿が益々発展していくことを願っています。

人生のベースは熊川だ！

熊川小学校教諭 松宮 弘明

「おっちゃん。前川の水の温度はどれくらい？」

「そうやな。夏と冬では少し違うけど夏場は十七・八度。冬場は五・六度くらいかな。」

九月。残暑が厳しい熊川の町並みを今年もふるさと学習で子どもたちと共に熊川を学ぶ活動を展開してきました。

私自身、熊川小学校に赴任以来はや五年。この間、幾度となく「ふるさと熊川」について子ども達とともに



今、思うこと

だんご屋 風鈴草

私たちが熊川地区に越して来ては十四年の月日が経ちました。慣れ親しんだ頃に、熊川宿で、店を持つ機会を得ました。熊川も、重要な伝統的建造物群保存地区の選定を受け、観光客も増え始めた頃でした。周りの人々の温かいご支援のおかげさまで、何とか一周年を迎えることが出来ました。

お店を営んで気付いたことは、観光客の方々は、華やかなことばかりを望んでいるのではなく、素朴な雰囲気がいいと言われる方が多い事を知りました。以前は、遠目で見ただころでは、有名な観光地をイメージしていましたが、認識不足だと思います。

この熊川宿の良いと言える所を大事にして、未永くみなさまに来て頂けるように努めてゆきたいと思えます。これから先、いろんな事が起こると思いますが、みなさんと共に考えて歩んでゆきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

に熊川へ飛び出し調べ学習を行ってきた。そんな時いつも変わらぬ感心することがある。一つ目は、調べ学習をする

ときの子どもたちの輝きに満ちた目である。うだるような暑さの中、また、調べる手がかりがなかなかつかめずにいる中でも決してあきらめない子どもたちの姿がいつももある。私たちの熊川をもっとよく知りたいと子どもたちの目が叫んでいるようだ。

もう一つ感心なことがある。それは、子ども達の問いに、いつも真正面から、子どもが納得するまで丁寧に教えてくださる町の大人の方たちがいるということである。子どももの

素朴な疑問はわずらわしいものである。にも関わらず、いつも変わらずその態度。子ども達がこの熊川の宝物のように大切にされているということが手に取るように分かる。

今年も、「熊川を調べ発信しよう」をテーマに取り組んだ。これらの活動を通して、熊川の自然や町並み、人の心などから、自分の体を通して学んだ数多くのものがある。これらすべてが、これからの子ども達の人生において、力強く生き抜いていく原動力になるものと確信している。熊川を誇りに思い、たとえはなれていてもいつも自分の原点になる熊川をこれからも大切にしていってほしい。

鯖街道交流シンポジウム

鯖街道の歴史・文化・食・まちづくり

鯖街道を舞台に活躍している福井・滋賀・京都の各住民団体代表の方に集まっていただきシンポジウムが開かれました。これをきっかけに参加した住民団体が、鯖街道にある数多くの誇るべき資産を再認識し、道を通じた交流を図りながら、鯖街道のさらなる発展を目指します。

とき：平成19年8月26日(日) 午後2時～
 ところ：熊川児童館(福井県三方上中郡若狭町熊川)
 主催：鯖街道熊川宿まちづくり協議会
 後援：社団法人近畿建設協会・京都市・高島市・小浜市・若狭町



■基調講演②



永江秀雄氏
元中京女子大学客員教授・若狭町文化財保護審議会委員

開会にあたり、森下裕副町長が、このシンポジウムが鯖街道の活性化の一つとなるよう期待する。河合健一会長は、熊川宿は重伝建選定を受け11年目を迎えた。古き町並みを守りながら新たな発想で今後のまちづくりを進めたいと挨拶されました。

■基調講演①



宗田好史氏
京都府立大学准教授・日本風景街道近畿地区研究会委員長

自然景観、沿道景観をどう規制していくか。民地に余分な看板を作らないよう注意してほしい。一九七〇年代を境に観光客は都会から田舎へ来るようになり、田舎が注目され関心が向いてきた。熊川宿はもうちょっとうるおいやおしゃれがあってもよい。

鯖街道は文化の道。名前は新しいが、歴史は非常に古い。御食国若狭は、塩が調として、魚や貝が御費として送られたことが木簡によりわかる。てっせん踊りは熊川の意気込みと一乗寺保存会のご指導で復活した。細川幽齋(藤孝)の妻は熊川出身。人の奇縁が大事と感じた。



休憩：葛ようかんでおもてなし(協力：熊川宿おもてなしの会)

■パネルディスカッション

(コーディネーター：宗田好史氏)



出口 要氏
京都市・出町商店街振興組合理事長

ふれあい広場、マラニック、鯖街道ウォークなど手づくりでイベントを行っている。



西村正久氏
京都市・一乗寺郷土芸能保存会

てっせんは昭和61年6月京都市無形文化財指定。一乗寺郷土芸能保存会により復活。問題は後継者の育成。交流が刺激になる。



澤田龍治氏
高島市・高島地域観光振興協議会事務局長・朽木在住

昭和62年5月から朝市を始めた。ネットワークは情報が峠を越えない。若狭と高島を一枚にした地図を発行したい。



岩淵 清氏
高島市・高島市今津町保坂

通過点としての保坂。旧道はほとんどなくなっている。一体化した行事が地域振興に繋がる。先見性のある人が肝要。



田村仁志氏
小浜市・御食国若狭振興部事務局長

御食国倶楽部で全国に展開。民間レベルでツアーを開催。小浜も伝建選定を目指し、文化を継承したい。広域連携が大切。



河合健一氏
若狭町・若狭熊川宿まちづくり特別委員会会長

この事業を点ではなく線として繋げていきたい。女性の方の意見をまちづくりに活かしていきたい。

千田千代和町長から広域連携の大切さについてお話がありました。

参加者交流会：鯖カレーでお食事。戦後物の無い時代に多く作られ、おいしくてなつかしい鯖カレー。今回は女性メンバーが中心となつて、二度の試食会を重ね、まごころこめて調理しました。

■鯖街道総踊り

出演：朽木音頭保存会
一乗寺郷土芸能保存会
熊川宿伝統芸能保存会

会場を宿場館前の街道に移し、熊川音頭、朽木音頭、てっせん踊りで交流を深めました。



第8回

熊川いっぶく時代村

平成19年
とき **10月14日** 日
午前9時～午後4時

ところ 熊街道熊川宿一帯

主催：熊川いっぶく時代村実行委員会
後援：熊川地区 町制

山車巡行で開幕。松木神社の例祭では子どもたちのお囃子が奉納されました。



山車巡行・展示

本陣ステージでは「五湖鶴太鼓」「浦安の舞」の伝統芸能が披露されました。



孝子与七物語 大八車レース

4年ぶり復活の「大八車レース」では、熱い声援を受けて15組の親子が疾走！



駕籠屋でござる in 熊川宿



水を大切に…水の入った桶を運ぶ珍レースに参加14チームが苦戦！



フリキの金魚レース



街道各所では豊満やつきたてお餅の振る舞い、鉛細工の屋台職人、人力車が人気を呼び、各団体のいっぶく処や朝市が開かれました。



国土交通省 日本風景街道とは、

郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、以って、地域活性化、観光振興に寄与し、これにより、国土文化の再興の一助となることを目的とします。

熊川宿では、平成18年5月より鯖街道熊川宿まちづくり協議会を設立し、「鯖街道交流シンポジウム」などの日本風景街道モデルルート事業を行ってきました。

そしてこのほど全国九十一ルート、近畿十五ルートの一つとして登録されました。

登録番号：近畿一第八号
名 称：若狭熊川・鯖街道

鯖街道熊川宿まちづくり協議会は、鯖街道熊川宿を拠点として、地元熊川区の住民団体と町並み保存担当行政部局および道路管理者の協働により、

一、歴史を感じさせる町並みの保存
二、街道を活かした地域づくり
を行い、交流と地域の活力を活かした地域づくりと美しい道路空間の形成を目指します。



日本風景街道

～シーニック・バイウェイ・ジャパン～

9/5

風景街道 近畿シンポジウム

(新大阪)

風景街道近畿ルートの関係者が集まり、熊川からも代表者が出席しました。基調講演では、「鯖街道交流シンポジウム」で熊川宿にもお越しいただいた京都府立大学の宗田好史先生が講演されました。また、イーデス・ハソンさんらによるパネルディスカッションも行われました。



12/8

丹後半島へ視察研修

(日本風景街道事業)



平成17年7月重伝建選定の伊根浦で遊覧船から丹後を見学した後、木造建築の会館で伊根の歴史や保存、観光、まちづくりについてお聞きしました。

断崖絶壁の海沿いを通り抜け、近畿第三号登録の丹後半島「古代ロマン街道」へ、途中昼食を経て、琴引浜鳴き砂文化館を見学しました。



続いて久美浜へ伺い、豪商稲葉本家でぼたもちをいただきながら、久美浜一区まちづくり協議会の取組みや活動についてお聞きしました。

平成19年度 日本風景街道 事業計画

日本風景街道の正式登録を受けて、次の事業が計画されています。

1. 風景街道活動団体パンフレット作成
2. 熊川宿ファンクラブ設立準備
3. 風景街道ルート研修・意見交換会(実施済)
4. こども語り部育成・テキスト作成
5. 町並み防災研修
6. おもてなしの会茶道研修・ギャラリー運営
7. 案内看板の作成

話題 TOPIX



熊川宿から生中継

NHKお昼の番組「ふるさと一番」で10月9日、熊川宿から生中継がありました。いとうまいこさんらが山本良市さん宅の通り庭や公開施設の旧逸見勘兵衛家を紹介されました。

ふるさと文化賞

まちづくりの功労を讃え、若狭町より若狭熊川宿まちづくり特別委員会に「ふるさと文化賞」をいただきました。11月7日、若狭町歴史文化館(老人大学)において受賞式がありました。

ここは、若狭鯖街道

熊川出身で東京にお住まいの若本清太郎さんが、ふるさと鯖街道の郷愁を歌った「若狭鯖街道」を作詩・作曲、CDを作られました。(歌・河瀬あいさん)熊川宿内のお店などで流れています。

6/16 山東へ蛍の研修



彦根キャッスルロードを經由して、米原市山東の蛍祭りへ行きました。日暮れとともに川沿いに多くの人が集まります。数は少なめでしたが、幻想的な蛍の乱舞を見ることができました。熊川でもかつて北川などで多くの蛍が見られました。ぜひ復活を期待したいものです。



7/15 若狭町歴史環境講座

(パレオ若狭研修室)

世界遺産の評価委員として活躍中の西村幸夫先生が、日本や世界の景観保全について講演され、「最近石見銀山のように山々集落く街道く港など広い範囲での景観や、文化・産業遺産が評価されています。熊川も鯖街道の中心となって活躍を続けて欲しい」と話されました。



8/15 猛暑の夕べ 納涼盆踊り

恒例の盆踊りが開かれ、家族連れで賑わいました。近年全体的に踊り手が少なくなってきました。伝統芸能保存会は月二回、踊りの練習をして参加を呼びかけています。9月9日には熊川地区体育大会で熊川音頭を、9月25日には得法寺でお月見踊りを行いました。



9/14 15 全国町並みゼミ 伊勢大会

伊勢市観光文化会館で、伊勢神宮司庁河合真如広報課長の基調講演に続き、伊勢や各地からの報告があり、「自然と歴史的環境を大切にしていきたい」と話されました。歓迎懇親会では、近隣各地の団体の方と交流ができました。二日めは、伊勢の町並み見学コースに参加しました。



11/18 小浜西組の方々が来訪

重伝建選定を目指す小浜市の小浜西組歴史的地区環境整備協議会の皆さんが研修に来られ、熊川宿まちづくりの経緯や活動についてお話を聞かれました。続いて民家の修理現場を見学されました。熊川と共に歩みを進める日も近いでしょう。



12/2 丹波篠山へ防災の研修

(熊川宿町並み保存伝統技術研究会)

篠山の重伝建地区は四十haと広く、城跡やお堀のある城下町に商家群が続く町並みです。鳳凰会館で立命館大の益田兼房先生と京都大の大窪健之先生から、町並み保存と防災について講演がありました。続いて地元建築士の案内で、修理工事中の建物十件を見学しました。



ちよつとお知らせ

広報紙コンクールで
優秀賞受賞

あすの福井県を創る協会の広報紙コンクール単位団体の部において、当委員会発行の広報紙『町並み通信「熊川宿」第15号』が、優秀賞(福井テレビ賞)に選ばれました。

2月2日、ふるさとづくり大会(美浜町中央公民館)において表彰式があります。

あとがき

平成20年は雪のお正月となりました。昨年の「熊川いっぶく時代村」は天候にも恵まれ、大勢の方にお越しいただき、数々の催しが賑やかに行われました。

8月の「鯖街道交流シンポジウム」では、各地域の方々と共に、より魅力ある鯖街道となるよう交流を深めていきたいと思いました。

このたび熊川宿が、国土交通省の日本風景街道近畿地区ルート「若狭熊川・鯖街道」として正式に登録されました。

12月の「風景街道ルート研修」では、丹後半島「古代ロマン街道」各地の取組みを研修しました。今後、いろいろな支援をいただきながら、「熊川宿ファンクラブ設立準備」をはじめとする風景街道事業や、まちづくり活動が計画されています。皆様のご協力をお願いいたします。またご意見やご提案がありましたらお寄せ下さい。

編集委員